

三上智恵監督最新作

「標的の村」「戦場の止み」



標的の島

風かたか



この砦が、最後の希望

辺野古、高江、宮古、石垣 なぜ闘うのか？ 壊れかけたこの国の、自由と平和をめぐる「最前線」。

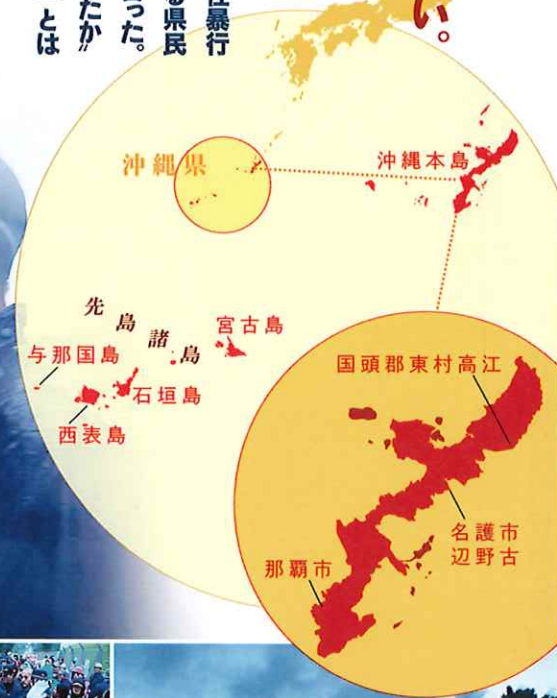


監督・ナレーション ● 三上智恵
プロデューサー ● 橋本佳子、木下繁貴
撮影監督 ● 平田守
編集 ● 砂川敦志
監督補 ● 桃原英樹
音楽プロデューサー ● 上地正昭
協力 ● 沖縄タイムス社、琉球新報社
製作協力 ● 沖縄記録映画製作を応援する会
製作 ● DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵
配給 ● 東風
2017年
日本
DCP・BD
119分
ドキュメンタリー

「標的の島」とは、
 沖縄のことではない。
 それは今
 あなたが暮らす
 日本列島のこと。

2016年夏、米軍属女性暴行殺人事件の被害者を追悼する県民大会で稲嶺進名護市長は言った。
 「我々は、また命を救う。風かたかになれなかった。」
 「風かたか」とは風よけ、防波堤のことだ。

沖縄県民の8割の反対を黙殺した辺野古の新基地建設、全国から1000人の機動隊を投入して高江で強行されるオスプレイのヘリパッド建設。現場では多くの負傷者、逮捕者を出しながら、激しい抵抗が続く。さらに宮古島、石垣島でミサイル基地建設と自衛隊配備が進行していた。なぜ今、先島諸島を軍事要塞化するのか？ それは日本列島と南西諸島を防波堤として中国を軍事的に封じ込めるアメリカの戦略「エアシーバトル構想」の一環であり、日本を守るためではない。基地があれば標的になる、軍隊は市民の命を守らない——それは沖縄戦で歴史が証明したことだ。だからこそ、この抵抗は止まない。映画は、伝えきれない現実を観るものに突きつける。



第42回 不戦を誓う三多摩集会

1941年12月8日、日本は真珠湾に奇襲攻撃を行い、太平洋戦争に突入しました。私たちは、この12月8日を「二度と戦争をしない」ことを誓う「不戦の日」として、毎年、様々な取り組みを進めてきました。

今年は沖縄復帰50年、真の沖縄を皆さんに知って頂きたく、映画「標的の島 風（かじ）かたか」の上映を企画しました。ぜひ、お誘い合わせてご参加ください。

日時 **2022年12月12日（月）**

開場 18:20 開会 18:30

場所 **国分寺市立いずみホール**

【主催】三多摩平和運動センター

TEL.042-528-1311

